## 歴史的街並みの景観・観光と地域の生活文化

# 北九州市役所は何故「小倉」に移ったのか?

~軍事と交通の要衝・紫川下流域~

福岡県立早良高等学校 秋吉 賢



図1 本記事で取り上げる小倉周辺 (北九州市小倉北区, 地理院地図より 図中の数字は写真 1 ~ 6 の撮影地点

## 1. 新聞記事で紹介された「インスタ映え」スポット

日本経済新聞の2019年8月4日付朝刊一面の特集記事『チャートは語るインバウンド 訪日客は西へ消費は東で』に目が留まった。2018年に3,119万人を記録した訪日外国人は2019年上半期(1月~6月)には前年同期比4.6%増の1,663万人に達したことが掲載されている。香港情勢や日韓・米中関係の影響が下半期の数値に多少あらわれると思われるが、ラグビーW杯や五輪の開催もあり、インバウンドは人数・消費額ともに拡大傾向が当面続きそうである。2018年(2016年比)の訪日客増加率1位は富士山観光やゴルフ場、新設ホテル、更に隣接する御殿場市の大型アウトレットモール等の影響とみられる静岡県駿東郡小山町(181.7%)。

続く2位が大阪~富士山~東京のゴールデンルートから外れた北九州市小倉北区(179.4%)であった。記事に目を通すと、2016年の韓国~北九州空港間の定期便就航(2019年夏季に大幅減便)、小倉城と隣接する神社が一枚に収まる「インスタ映え」スポットとある。城と神社が一枚に?…

8月お盆明けの日、その謎解きをするため現地へ向かった。 台風一過で好天を期待したが、湿った空気と朝からの強い日 差しの影響もあり、にわか雨に見舞われながら北九州市内を 何ヶ所か回った。八坂神社の正門に到着した頃には幸い雨も 上がり、日差しが戻った。境内に入ると、人影も疎らである。 四方を建物に囲まれているが、小倉城の石垣や天守閣を垣間 見ることができる。どこだろうと、小倉城に抜ける別の門を くぐると、正面に鳥居らしきものが目に飛び込んできた。右 手には濠に隣接して天守閣が見えている。早速近付いてみる と、韓国からの観光客らしきカップル2組が撮影の真最中で ある。神社というのは「鳥居」のことであった。私も鳥居と 天守閣が隣り合わせの写真(写真1)を撮った。

### 2. 小倉城と八坂神社

現在の天守閣は1837(天保8)年,城内から発生した火災 によって全焼したものを1959(昭和34)年に再建したもので あり,2018年から2019年にかけて再建60周年の各種行事



写真11 小倉城天守閣と八坂神社鳥居(2019年8月筆者撮影)



写真2 常盤橋とリバーウォーク北九州 (2019年8月筆者撮影)

と天守閣内部の改修工事が行われた。1569 (永禄12)年、中 国5か国(周防・長門・安芸・備後・石見)を平定した毛利 築いたのが初代の小倉城で、復元された天守閣と八坂神社 のあたりにあったと考えられている。城主は南条勘兵衛, 高橋鑑種と継がれ、1587 (天正15) 年の九州出兵により、島 津氏を降伏させた秀吉は藩の領地を薩摩・大隅・日向の三 州に削減して、小倉城には森良成(後に秀吉の口添えによ り毛利勝信に改名)を充てた。勝信は慶長の役で活躍した が、秀吉の死後、関ケ原の戦いで石田支援に出陣しようと していた矢先、中津の黒田孝高(如水)に不意討ちされた。 その後改易され、息子の勝永と共に土佐の山内一豊に預け られた。その後、筑前に移った孝高は、息子の長政と共に 名島城(現・福岡市東区)に入り、7年の歳月をかけて福岡 城を築城した。長政は築城にあたり、文禄の役で自ら見た チンシューンシ 晋州城(大韓民国 慶尚南道 晋州市)を参考にしたという。

二代目の小倉城は、関ケ原の論功行賞により丹後宮津 十一万石であった細川忠興により築かれた。孝高と長政が 筑前に移動したあとの中津に入り、弟の興元を小倉城主に 据えた。しかし、興元は出奔したため、自らが城主となる。

忠興は小倉に入って二年目に築城を開始し、5年後の1607(慶長12)年に城は完成した。石垣には城の南東に位置する是笠山から切り出した野面石が使われた。石垣は18.8 m, 天守閣が28.7 mで、合わせて50 m近い高さである。「唐造り」と呼ばれる天守は、4層と5層の間に「ひさし」がなく、4層よりも5層が外に張り出し、1層から4層が白塗りに対し5層のみ黒塗りという特徴を持っている。観光客の増加を期待した地元の要望で、元々は無かった飾り破風が付けられ、復元された。

1617 (元和3) 年, 忠興は鋳物的計覧に小倉城の鎮守として八坂神社を創建した。愛宕山と香春口の三本松(現・古船場町)にあった祇園を併せたものであった。翌年から始まったのが小倉の夏の風物詩「小倉祇園太鼓」である。2019年は400周年にあたり、文化庁は3月28日に国の重要無形民俗文化財に指定した。神社は1934(昭和9)年,現在地に移転した。

1632 (寛永9) 年,徳川家光から九州の諸大名監視の命を受けた小笠原忠真が小倉城に入城した。当時,域内の樹木は松が一般的で,薪にできるために城内での植栽が禁じられていた「桜の城」は珍しいという記録が残っている。信州松本を統治していた忠真は,城下の人々に郷里のぬか漬けを奨励し,「じんだ」(イワシのぬか炊き)などが小倉の郷土料理として残っている。以後小笠原家が234年にわたって城主を務めた。小笠原氏の別邸「下屋敷」には泉水のある回遊式庭園が設けられ,現在は小笠原流礼法を伝える体験型文化施設・小倉城庭園として復元されている。

## 3. 常盤橋

小倉城と八坂神社のすぐ北側に位置する複合施設が2003 (平成15)年に開業した「リバーウォーク北九州」である。商業施設だけでなく、北九州芸術劇場や北九州市立美術館分館、ゼンリン地図の資料館(2020年4月ゼンリンミュージアムに)なども同居している。そのすぐ脇の大きな橋が勝山橋、勝山橋の北側にかかっている橋が常盤橋(写真2)である。

小倉城周辺は自然の河川である板櫃川、紫川とその支流の 繁竹川に加え、開削されてできた砂津川など人工の水路と濠 が多数ある。城下町当時の紫川には2本しか架橋がなく、北 の常盤橋と南の豊後橋(現・小倉北消防署付近)であった。

現在の常盤橋は1995 (平成7) 年,「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」の一環として架けられたボンゴシ材やチーク材などの天然木を利用した橋で、歩行者・自転車のみが通



写真3 老舗百貨店の井筒屋(奥)と飲食店街の紫江 S (手前) (2019 年 8 月筆者撮影)

行できる。橋のすぐ近くには「伊能忠敬測量200年記念碑」もある。厳密には同じ橋ではないが、伊能忠敬やシーボルト、森鷗外・松本清張に加え、長崎街道・唐津街道・門司往還・中津街道・秋月(香春)街道の拠点として秀吉や諸大名、幕府役人等の過去の往来が想像できる。

1898 (明治31) 年11月. 小倉城内に開設された陸軍第12師 団の軍医部長として森鷗外(森林太郎)は2年9か月の間、小 倉に滞在した。[1899(明治32)年6月~1902(明治35)年3月] 小倉城庭園と彼の旧居「鍛冶町」をほぼ東西一直線に結ぶ通 勤ルート上の紫川に現在は「鷗外橋」が架かっている。 庭園 の紫川対岸(右岸)には老舗百貨店・井筒屋(写真3)が建っ ている。ルートはその本館と新館の間を通っている。陸軍第 12師団は日清戦争後の誘致運動も実り、1898 (明治31) 年11 月, 小倉城内に開設された。兵営人員7千人余りを抱えるこ とになった陸軍施設は、従来の小倉城とその周辺地域の敷地 では手狭になり,企救郡北方(現・小倉南区北方)に約40万 坪(1.32km)の軍用地を確保し、新設部隊の兵営を設置すると ともに小倉衛戍病院も当地に移転した。ここは、現在の北九 州モノレール競馬場駅東側にあたり, 現在は北九州市立大学 北方キャンパスや陸上自衛隊小倉駐屯地として利用されてい る。陸軍省からの補助金を獲得し、1913 (大正2) 年には人口 増加に対応した水道施設が小倉で竣工した。

日清戦争の大本営は広島に置かれ、外港として字品港(現・広島市南区)が最重要輸送拠点となったが、それに次ぐ拠点と考えられた門司港が輸送・補給拠点として発展した。門司兵器修理所も開設され、大阪砲兵工廠に編入されたことで、後の小倉工廠の前身となった。

#### 4. 大手町公園・小倉陸軍造兵廠跡(写真4)

勝山公園の南側には小倉北区役所,小倉北消防署があり, 更に南下すると北側と西側に高層ビルの病院が立ち並ぶ大 手町公園がある。公園からは都市高速の高架で見えないが, 紫川の対岸(右岸)にはTOTOの小倉第一工場が立地し



**写真 4 小倉陸軍造兵廠跡**(2019 年 8 月筆者撮影)

ている。

1923 (大正12) 年の関東大震災により、陸軍造兵廠東京 工廠は壊滅し、当時の大陸政策や東京での工場復興よりも 立地条件のよいところに新設したほうが経済的という判断 により、小倉工廠の設置が決まり、1933 (昭和8) 年10 月 に操業開始となった。1935 (昭和10) 年の東京工廠からの 移転完了、1937 (昭和12) 年の日中戦争などにより、17.7 万坪 (0.59km) の敷地で、最盛期には従業員4万人以上が働 いた大型軍需工場の生産量は増加した。広大な敷地の南端 はこの大手町公園、西端は裁判所合同庁舎(福岡地裁小倉 支部、小倉簡易裁判所など)、北端は北九州市立中央図書 館あたりと考えられる。敷地跡には、小倉北区役所、アル モニーサンク・ソレイユホール、新小倉病院、検察庁・労 働基準監督署等の官公署が立地するとともに、軍需工場の 名残として、安川電機の工場もある。

#### 5. 長崎の鐘・原爆犠牲者慰霊平和祈念碑

八坂神社・小倉城・小倉城庭園・北九州市庁舎・松本清 張記念館が1つのエリアを形成している。毎年2月に開催 されている「北九州マラソン」の出発点ともなっている小 文字通り(県道83号)をはさんで南側エリアが、市立文学 館・中央図書館もある「勝山公園」である。この一角に長 崎の鐘(写真5)・原爆犠牲者慰霊平和祈念碑(写真6)が ある。1945(昭和20)年8月9日、3日前の広島に加えて、 長崎にも原子爆弾が投下された。この時の第一目標は小倉 であった。視界不良のために投下目標が長崎に変更された が、視界不良の原因としては前日8月8日の「空襲」の影響 が指摘されている。午前10時に飛来したB29約120機が で構・戸畑・若松各市で一時間にわたって焼夷弾攻撃を加



写真5 勝山公園内にある長崎の鐘(2019年8月筆者撮影)



写真 6 勝山公園内にある原爆犠牲者慰霊平和記念碑 (2019 年 8 月筆者撮影)

え、八幡を中心として甚大な被害(八幡だけでも死者1,700名以上)が発生した。因みに、B29による日本本土での初空襲は約1年2ヶ月前の1944(昭和19)年6月16日、この時は47機のB29が午前1時ごろから約2時間にわたって現在の北九州市全域に空爆を行い、この時も八幡を中心として300名以上の犠牲者を出した。

米国・ワシントンでも議事を中断して、上院・下院で速 報により日本本土初空襲のニュースを伝えたという。

## 6. 北九州市の発足と新市庁舎問題

北九州市の合併運動は4次にわたると考えられる。(一) 1936 (昭和11) 年頃 [満州事変に伴う国防]、二 1941 (昭和 16) 年頃 [太平洋戦争と関門鉄道トンネル構想]. (三) 1946 (昭 和21) 年頃[戦災復興と平和産業], 四1960(昭和35)年頃 「特定地域指定や人口の百万人到達」の4回で、第二次大戦 前には海峡を挟んで山口県下関市も合併の候補として考え られていたことも分かる。1960(昭和35)年2月,改選さ れたばかりの若松・八幡・戸畑・小倉・門司の5市長が集 まった新市長会が合併に向けての正式な初会合となった。 第二次大戦前後で市域の人口が80万人超から約50万人と なり、その後1961 (昭和36) 年には100万人に到達したこ と, また昭和30年代後半の筑豊電鉄(黒崎〜中間)開業, 5 市の電話自動化、関門国道トンネル開通、国鉄の北九州地 区電化、若戸大橋の着工等の全域でのインフラ整備も合併 の推進力となった。1951 (昭和26)年の特定地域指定によ り「北九州総合開発計画」が策定され、道路や港湾、鉄道、 用水等が北九州工業地帯で一体整備されたことも市域全体 での開発を後押ししたようだ。

合併に向けた協議が進み、5市(各市それぞれ)の合併承 認議決を1962(昭和37)年6月末を期限とし、合併予定期 日を1963(昭和38)年2月10日とすることが決まった。新 市名も13万7票の公募を経て、1962(昭和37)年6月10日 に「北九州市」と正式に決まった。ところが、最終局面で いくつかの課題と5市の対立が表面化し、合併協議と議決 が難航した。

課題は主に4点あった。1点目は議員定数と任期,2点目は政令指定都市の指定,3点目は合併後の経過措置(行政サービス水準の不均衡),そして4点目が新市庁舎の位置であった。1・2点目は中央政府との調整,3点目は5市間の協議により決着したが,最後まで難航し,合併後にも物議を醸したのが最後の新市庁舎の立地の問題であった。

特に戸畑市と小倉市の対立は根深く、最終的には「北九 州市の事務所は旧小倉市、旧八幡市および旧戸畑市の境界



写真7 戸畑図書館(旧戸畑市役所庁舎)(2019年8月筆者撮影)

の旧小倉地区内中央緑地 (到津遊園を含む) のおおむね中央付近に置く」ことと、その付則として「庁舎が建設されるまでの間は旧戸畑市役所に仮事務所を置く」ことがようやく決まった。

合併の議決は予定よりも3か月以上遅れて,1962(昭和37)年10月4日14時から5市の市議会で一斉に行われ,ついに正式な合併が認められた。

新市発足から正式な新市庁舎開設までの約9年間仮市 庁舎が置かれたのが旧戸畑市役所庁舎(写真Z)であった。 現在は北九州市立の戸畑図書館として市民に利用されてい る。道路をはさんで斜向かいには外観が階段状の建物であ る戸畑区役所がある。著者も今回調べるまで、市役所は最 初から小倉にあったと思い込んでいた。

旧戸畑市役所は増改築の後、北九州市の市役所仮庁舎として使われた一方、戸畑文化ホール(旧・戸畑市民会館で現・戸畑区役所の敷地、戸畑文化会館は戸畑駅ビルに2002年移転)裏にはプレハブ庁舎が建てられ、正式な新庁舎ができるまで戸畑区役所として使用された。

北九州市は予定通り発足し、発足の50日後となった1963 (昭和38)年4月1日、日本で横浜・名古屋・京都・大阪・神戸についで6番目の、そして九州で初めての政令指定都市となった。福岡市はその9年後の1972 (昭和47)年に指定された。2019 (令和元)年8月現在、福岡市の人口は約159万人と増加を続けているが、北九州市は約94万人と減少を続けている。恒常的に北九州市の人口が100万人割れとなったのは2005 (平成17)年1月以降で、市も様々な対策を打ってきたが、人口減少に歯止めがかかっていない。

新市庁舎問題にピリオドが打たれたのは、新市発足から 6年目の秋、11月開催の市議会であった。遡ること5か月 の1968(昭和43)年6月15日、市議会庁舎建設特別委員会 で当時の二代目市長・谷伍平氏が「新市庁舎の建設地は小 倉区(現・小倉北区)勝山公園が最適」と発言し、ここから 調整が続けられ、年内の正式決定に至った。

かくして,現・北九州市役所は1970(昭和45)年12月1日に着工し,1972(昭和47)年4月10日に開庁式が行われ,



図<mark>2 北九州市役所と戸畑区の位置関係</mark>(地理院地図より、北九州市役所、戸畑図書館などの位置を示す)

戸畑区で行われていた北九州市の業務が小倉区(現・小倉 北区)に移管された。その後,行政区の再編により1974(昭 和49)年4月には八幡区が八幡西区・八幡東区に,小倉区 が小倉北区と小倉南区に分区され,7行政区となった。

新市庁舎の位置をめぐってその建設場所が見直された背景として4点,見直しの観点として3点が市史において指摘されている。背景として一中央緑地は交通が不便, 口地下の坑道など建設地として不適正, 田市民のオアシス・憩いの場・レクリエーションの場としての活用, 四到津遊園地(現・いとうづの森公園)の用地買収不調などが挙げられている。見直しの観点として一最も安い経費, 口最も早い時期, 田市役所機能を発揮しやすい地点が挙げられている。

現在の中央緑地一帯には、いとうづの森公園(小倉北区)、 北九州市立総合体育館(八幡東区)、金比龗神社(戸畑区)そ の他公園やキャンプ場、霊園などが立地している。確かに小 倉城内と比べると北九州市域の中央に近くなり、中央緑地の 用地確保も難しくなかったのではないかと推測する。

1975 (昭和50) 年に開通した山陽新幹線 (岡山―博多間) は 丁度この中央緑地の下をトンネルでくぐっている。ここに, もし新小倉駅が開業して, その駅近くに新市役所が完成して いたら, 北九州市の市街地はどのようになっていただろうか。 北九州市の市史には記述が見当たらないが, 私見として, 新市役所の立地条件にとって新幹線の博多開業 (北九州新駅の建設) は大変重要な条件だったのではないかと思う。

## 7. 令和の時代を迎えて

私の勤務する福岡県立早良高等学校は1986(昭和61)年開校、2020年に35年目を迎える。15クラス生徒数469名の学校である。福岡市早良区小笠木の地にあり、佐賀平野からのフェーンが吹き降りることもある背振山地の麓に位置している。日本初の禅寺である聖福寺(福岡市博多区)を創建した臨済宗の開祖・栄西が宋から持ち帰った茶の栽培地としても知られ、大正から昭和に元号が変わった時には近くの早良郡脇山村(現・早良区脇山)が大嘗祭の主基斎田に選定され、「脇山米」が献上された。1928(昭和3)年の昭和天皇即位に伴う大嘗祭から90年以上経ち、斎田跡地は脇山中央公園として整備され、記念碑が建てられている。毎年6月の田植えの時期には保存会の人々により継承されてきた「お田植え舞」が脇山小学校の児童などにより、披露されている。

時代が令和に変わり、今度は太宰府市の坂本八幡宮にスポットライトが当たった。福岡県には、まだ知られざる「お宝」が沢山あるだろう。これからも発掘して生徒や先生方に還元できれば幸いである。

## 【参考文献】

- ◇『北九州市史 五市合併以後』(1983) 北九州市史編さん 委員会編 北九州市
- ◇『新修 北九州市史 市政編』(2017)新修北九州市史編纂会議編 北九州市
- ◇『地域の中の軍隊6 九州・沖縄 大陸・南方膨張の拠点』 (2015) 林博史 編 吉川弘文館
- ◇『新装改訂版 九州の戦争遺跡』(2018) 江浜明徳 海鳥 社
- ◇『アクロス福岡文化誌7 福岡県の名城』(2013) アクロス 福岡文化誌編纂委員会 編 海鳥社
- ◇『アクロス福岡文化誌 10 福岡県歴史散歩』(2016) アクロス福岡文化誌編纂委員会 編 海鳥社
- ◇『北九州歴史散歩 [豊前編]門司・小倉北・小倉南の58 エリア』(2019)特定非営利活動法人 北九州市の文化財を 守る会編 海鳥社
- ◇『博多に強くなろう 北九州につよくなろう 100 の物 語 下巻』(2018) 西日本シティ銀行 編 西日本新聞社
- ◇『レトロマップシリーズ 9 昭和 39年の北九州と現在の 北九州』(2013) 塔文社
- ◇「小倉城周辺魅力向上事業基本計画」(2016) 北九州市産 業経済局観光にぎわい部観光課
- ◇福岡市政だより 2017年 (平成29年) 8月1日号 早良区版